



みはら玉手箱



平成28年5月29日(日)に開講した「平成28年度 市民学芸員実践講座」は、10カ月のカリキュラムを全て終了し、平成29年1月22日(日)、めでたく閉講式を迎えました。

平成28年度市民学芸員実践講座



閉講式

(於 城町庁舎2F 大会議室)

1. 開会挨拶 文化課
2. グループ発表 (活動報告・感想)
全7グループ 順番に発表
3. 講評 三原市文化財協会会長 橋本敬一先生
4. 平成29年度の実践講座予定と閉会の辞 文化課



[橋本敬一先生]

<写真鑑賞>

- (1) 写真家 岡村徳男 展 全78点 於 サン・シープラザ ギャラリー 1
 (2) 三原情景写真展 三原市歴史民俗資料館蔵等 全39点 於 サン・シープラザ ギャラリー 2

平成28年度 各グループの感想・報告



情報発信グループは、活動成果を紹介する文化課のホームページ「みはら玉手箱」において、第15号～第18号が発行済で、第19号を準備中。



三原古写真収集グループは、本郷町・久井町・大和町から全約150枚の写真を60頁位にまとめ、解説文を最終校正中。



宮本常一写真収集グループ平成26年1月に実施した企画展の第2弾として、候補となる写真は選定済。会場や予算等との兼ね合いで、実施要領検討中。



城下町体験グループは、スマホを持って三原を散策する人用に、観光ポイントを50に絞り、その解説と古地図との位置関係も画面上で知ることのできるガイド資料の元データを作成中。



三原遺産研究グループは、次世代に伝えたい100の三原遺産登録を目標に掲げ、現地視察で学ぶことが多かった。選定基準を明確にして絞り込みにかかる。



城館体験グループは、平成28年3月27日開催の「高山城跡見学」や同年11月19日開催の山城講演会に伴う「新高山城跡見学」に備え、マップ作成や登山道の整備等で多忙であった。



市民学芸員運営グループは、今年度も講演会や展示会で受付など補助作業をした。

【質問受付】

この「みはら玉手箱」への質問等は三原市教育委員会文化課

bunka@city.mihara.
hiroshima.jp

宛にお寄せください

みはら おもしろクイズ



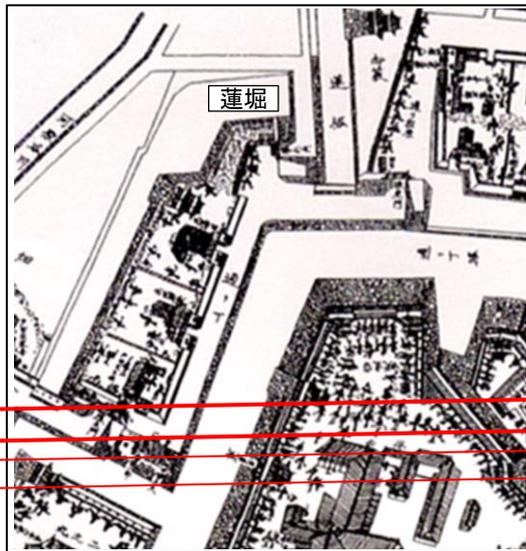
(解答は3/13頁の欄外にあります)

三原城跡歴史公園「開園」

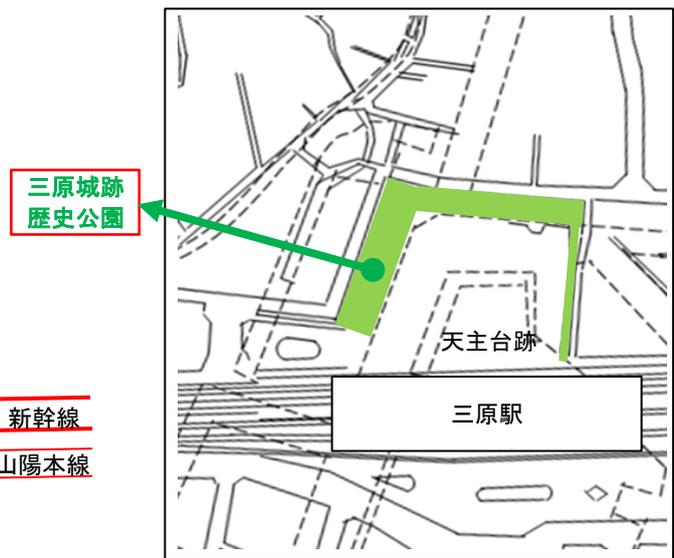
「瀬戸内三原 築城450年事業」の記念すべき年ですが、これに「三原城跡歴史公園」の開園が間に合いました。この公園整備事業は、文化庁の補助事業として、土地買収→発掘調査→公園整備の手順で、10年掛かりで完成したものです。

侍屋敷が歴史公園に変身するまでの経緯を絵図面から、たどってみました。

1. 三原城天主台堀まわりの変遷

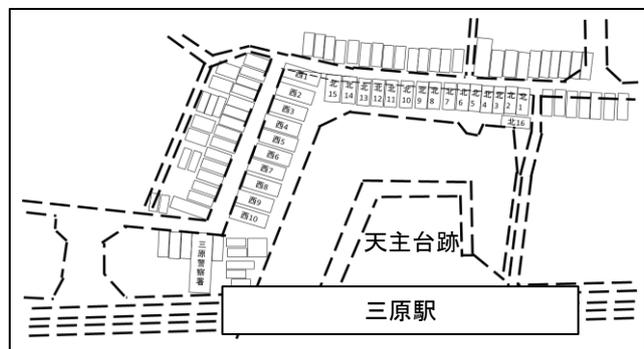


[慶応年間(1865~1868)の城絵図]



[平成29年]

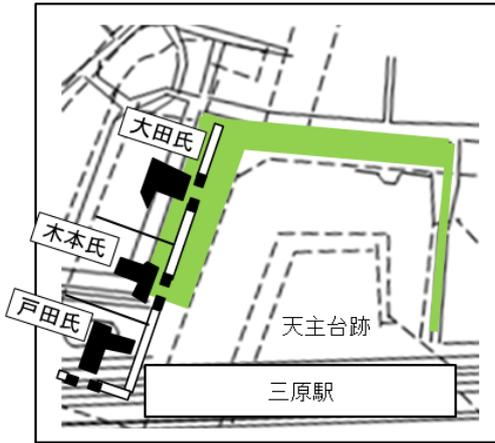
平成29年の地図に昭和40年代(1965頃)の家並みを細線で重ね書き



＜三枚の絵図から読み取れること＞

- (1) 堀の北方から西方に「くの字」に曲がる昭和年代の道路には、店や旅館等が道路の両側にぎっしりと立ち並んでいた。
- (2) その数は、三原城跡歴史公園の北方に15軒、西方には10軒であった。
- (3) 江戸時代、堀西側には、蓮堀に至るまでの範囲で、大田氏、木本氏、戸田氏の僅か3軒が、広大な屋敷を構えており、1軒当たりが昭和時代の家10軒分以上の広さであった。
- (4) 昭和40年代の家屋において、堀の西側は、現公園内に収まっているが、堀の北側は、平成の道路にまではみ出していたことが判る。

2. 堀西側の侍屋敷跡



長屋門の石列西端部



〔発掘された石列(北面視)〕
○印部の石列を復元



〔福山市で移築された〕
長屋門の例

平成29年の地図に、大田氏、木本氏、戸田氏の屋敷を重ねて記載すると、左図の通りです。

- (1) 堀西側公園の東西ほぼ中央に、三氏の屋敷の塀が建っていた。
- (2) 〃で示す長屋門は、大田氏、木本氏は屋敷の東側に、戸田氏は南側にあった。
- (3) 発掘調査で見つかった石列は、長屋門に係わる石列と推定されているが、左図の大田氏の屋敷ではなかろうか。
- (4) 公園には、その長屋門風のあずまやが休憩所を兼ねて建てられている。発掘された石列のサイズから推定される長屋門の大きさとのこと。
- (5) 戸田氏の屋敷は、現隆景広場から新幹線高架下まで広がっていたことになる。
- (6) 三氏の屋敷跡は、昭和時代の住宅や道路の下になっており、当時の姿再現は、困難なことがよくわかる。



長屋門風あずまや

復元された石列
(元の石列は約20cm下に埋め戻されている)

三原城跡歴史公園で物知りになれます

この公園の随所に説明看板があり、公園の詳しい解説のほか、あずまやには、発掘調査での出土品、三原城の歴史や古地図・明治時代の写真等も看板で掲示されており、三原の歴史について、随分物知りになることができます。

又、天主台石垣のライトアップを見ると、心が落ち着きます。夏場の夕方には大勢の人垣が出来ることが予想されます。

おもしろクイズ

三原城跡歴史公園には、茶褐色で細長いあずまやがあります。このあずまやには、どのような目的と大きさの理由があるのでしょうか。

(ヒントは本文に記載されています)

- (ア) 昔風の休憩所。通常あずまやは、四本柱で正方形が多い。歴史公園は、細長いのでそれに沿って細長い形になっただけのもの。
- (イ) 前項の目的に同じ。大きさは、景観を損ねない程度で最大とした。
- (ウ) 前項の目的に同じ。大きさは、発掘調査で見つかった石列から、江戸時代ここにあった侍屋敷の長屋門サイズに合わせた。



三原のお祭り



紀元節・節分追儺祭

三原市大和町下徳良に亀山神社があり、2月の建国記念の日に「紀元祭と節分追儺祭」が行なわれました。紀元祭とは珍しい行事なので紹介します。

紀元節とは、明治6(1873)年に、古事記や日本書紀で日本の初代天皇とされる神武天皇の即位日をもって定められた祝日でした。大正3(1914)年から、全国の神社でも紀元祭を行うように定められ、昭和2(1927)年の皇室祭祀令の一部改正によって、賢所、皇霊殿、神殿の宮中三殿においても行われるようになりました。

昭和23(1948)年に占領軍(GHQ)の意向で廃止され、その後昭和41(1966)年に、2月11日は「建国記念の日」として国民の祝日となり翌年から実施されました。

それでは亀山神社の紀元祭はどんなものでしょうか。

<拝殿行事>

先ずは、祭典開始のお言葉から始まり、^{しゅぼつ}修祓(注1)に続き献饌、そして宮司の^{のりと}祝詞奏上。この祝詞も紀元祭祝詞と節分追儺祭祝詞の二本立てでした。その後「^{しんさつ}神札(注2)遷霊の儀」といって神札に神様の御霊を迎える儀式があります。神様を迎えたところで、家内安全厄難退除を祈請して大祓詞を奏上し、宮司が玉串を^{たてまつ}奉って拝礼します。

続いて、神社総代長、神社崇敬会代表も玉串拝礼、続いて年男年女の代表者も玉串拝礼。酉年生まれの者も一緒に拝礼。また、各星(注3)の代表も玉串拝礼。この時該当者も一緒に拝礼します。

これらの神事が終わると^{てっせん}撤饌(注4)その後、宮司の一拝でこの二つの拝殿内の儀式が終わります。

(禰宜の話から)

<遙 拝>

続いて、前庭の国旗掲揚台前で^{かしはら}檀原神宮に向かい遥拝の儀式です。祝詞奏上の後参拝者一同宮司に倣い拝礼。そのあと禰宜の先導で「紀元節のうた」を奉唱。

<弓打ち神事>

神楽殿の前に設置された鬼の的に向かって、拝殿前の鳥居から禰宜が4本の矢を射ます。一本目は口の中へ、二本目は外れ、三本目は左頬に、最後の一本は見事鬼の眉間を射抜きました。

その後、八方位の結界の中に皆さんが入り、一白から九紫の御幣前に立ち一隅づつ、宮司がお祓いし、「桃の弓 葦の矢風に打祓う 身には穢れの霧雲もなし 身には穢れの霧雲もなし! エーイ!」と、拝殿・神楽殿・参集殿・檜林の空高く禰宜が厄難退除の矢を放ちました。

<豆まき>

前庭の儀式が終わると、参集殿に入り豆まきです。よく目にする豆まきは、小さなナイロンの袋に入った豆を外庭で撒くのですが、ここでは部屋の中なので、豆をそのまま撒かれます。撒かれた豆を参拝者は我先に拾い集めます。十分に豆を頂いた後は福引きがありました。こんな豆まきは初めてで楽しい一日でした。

(注1) 祭典において、神さまをお招きする前に心身の罪穢を祓うこと。

(注2) 神札は紙製であることが多い、また紙1枚のものもあれば、和紙に折りたたんで中に神札を封

印してあるものある。

(注3) 一白水星から(二黒土星、三碧木星、四緑木星、五黄土星、六白金星、七赤金星、八白土星)九紫火星まで9つのグループ。

(注4) お供え物を下げる儀式ですがお神酒だけを下げる。

< 亀山神社由緒 >

亀山神社は宗像三柱神・八幡神・吉備津彦神・大三輪神を始め34柱の多くの神を祀り、往昔は土倉郷の総氏神として崇敬せられ大宮八幡宮と称しました。

鎮座の山形が宛ら亀の形象をなすに依り亀山神社と申し上げます。

配祀の氏神宗像三女神は天照大御神の御子神にして本宮は福岡県宗像郡鎮座の宗像大社でまたの神を道主貴と申し上げ海陸両道の交通守護の神と仰がれ高い神徳を普く崇敬せられて居ります。

宗像神が此の地の氏神として鎮まれたのは推古天皇(593~628)の33年にして往古は本宮と同じ三神を友兼山に田心姫神(多紀理比売命)、太平山に湍津姫神、八幡山(上徳良)に市杵島神と三山三社に鎮斎されお祀りしてありましたが、明治41(1908)年に中津宮に当たる亀山神社に合祀されました。

また、大三輪神の本宮は奈良県三輪山にあって創建は国内の神社中最も古く地鎮治病の神として靈験著しく歴代の皇室の崇敬も比類ないものと伝えられています。

天平の昔当地友兼山麓の大樹の下にこの神が老翁と化って顕れ神託し給ふに依りその神姿を彫刻し御祀り申し上げた旨旧記に誌され御神像も今に当社に伝わり日夜氏子の安寧幸福を御守護いただいて居ます産土大神であります。

当神社の創建の古く神徳の広大なることを伝えるものとして貞観(859~877)年中の神体並びに文治5(1189)年酉3月吉日と記名の神像7体は年号記載の神体では県下最古のもので全国でも稀なものと謂われ斯の様な遠い先祖の古い文化と貴重な信仰の遺産が現在に至るまで永く維持継承せられて来たことは誠に何事にも勝る郷土の誇りであります。 [神社内看板・広島県神社誌より]



[亀山神社参道]



[亀山神社拜殿]



[祝詞奏上]



[神社総代長玉串拝礼]



[年男年女玉串拝礼]



[各星代表拝礼]



[遥拝1]



[遥拝2]



[弓打ち神事]



[一本目口中へ
二本目外れ
三本目左頬へ]

[四本目で見事命中]



[結界の中から]



[参集殿の中]



[豆まき]

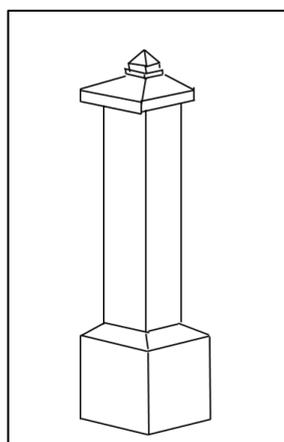
石碑が語る三原の歴史

今回は、沼田川沿いをひた走り、西の市境を接する東広島市河内町から県道432号線を北上、白竜湖に沿って大和町和木へとたどっていきます。まるで恵下谷のような道を抜けて、ダムが目飛び込んできます。この椋梨ダムは昭和35(1960)年着工、昭和43(1968)年竣工の洪水調節水道用水工業用水の供給、発電を目的とした多目的ダムで、ダム湖は「白竜湖」です。日本ダム協会の「ダム便覧」によれば当時のダム対策同盟委員長らが話し合って命名したとのこと。もともとの辺りの流れは水しぶきで白く見えたことから「白川」と呼ばれていたことや、上空から見ると竜の形に似ていることによるそうです。このあたりを「箱川」といいます。「白川」から転訛したものでしょう。因みにこの白竜湖には4本の橋が架かっています。

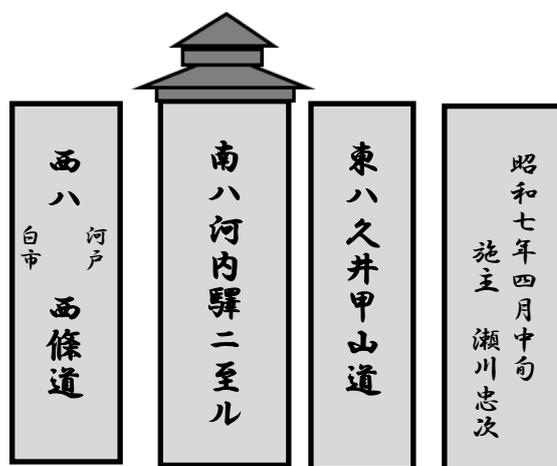
道 標



(現在の様子)



(倒壊前の想像図)



(西面)

(南面)

(東面)

(北面)

[三叉路道標]…横18cm幅17cm高さ70cm

椋梨ダムを右目に、小田橋を渡って白竜湖畔をぐるり迂回する所で、県道小田白市線の分岐点に立っていました。笠つきの立派な道標だったのです。昭和7(1932)年といえますから、当時の白川のほとり、小田別れに立っていたのでしょう。明治22(1889)年、小田村と和木村が合併して豊田村になっていましたが、昭和30(1955)年、いわゆる昭和の大合併の際、豊田村小田の一部は、合併後の大和町につくか、駅に近い河内町につくか熟慮、結局分離して河内町になった経緯があります。当時の人々の意識の高さでしょうか、長い歴史の中に沈潜したものがあったのでしょうか。深山道路が改修され便利になったことも影響していたことでしょう。

平成27(2015)年10月頃訪れた際に、なんと崩壊、バラバラになって転がっていました。現在は、何とか道標だけは立掛けてあります。

記念碑



(表 面)

碑

横 : 115 cm

奥行 : 25 cm

高さ : 260cm

自然石台座

200×90×70cm

自然石台座の下は大岩

で固めてあります



(裏 面)

[宮尾嘉作翁之碑]

白竜湖畔にある白竜湖リゾートは三原市の西の端、目の前は東広島市です。この記念碑はリゾートの入り口432号線沿いに建っています。非常に立派な記念碑です。現在その多くはダム底にある「深山道路」を私財をなげうって造った人が宮尾嘉作氏です。氏は小田の戸田嘉吉の子として生まれ、13歳のとき和木の宮尾家に養子に入り、長じて豊田村収入役を務めました。村きっての資産家で温かな善意の人であった彼の許には、小作人はじめ困窮者が借金を頼みに来る事が多かったそうです。その優れた知性強固な意志、温容な人格と指導力は地域発展の将来に大きな期待が託されたのです。

氏は、村人の生活の向上を第一と考え、先進的な考え方をもって村内に様々な事業を起こし村人を雇用しました。また「殖産興業は道路にあり」と、当時、山の中腹を縫うように人一人がやっと通れる程度であった豊栄～三原道の改修、次いで深山溪谷に抱かれ絶壁頭上にあり車馬の往来を固く拒絶する深山道路の改修に、皆が逡巡する中勇断をもって里道改修組合を設立、着工したのです。しかしながら断崖絶壁を各所に擁する難工事、予想外の予算違いで「三本松」で工事中止を余儀なくされたのです。氏はそこから河内まで莫大な私費を投じて明治34(1901)年に完工し、この地域の発展に寄与しました。しかし、宮尾家の財は底をつき破産整理となり、淋しく故郷を去り再起を計っていたであろう京都の地で「偉大なる愚者」宮尾嘉作氏は客死されたそうです。

その深山道路がダム建設にも大きく貢献したのです。この道路なくしてはこの地の発展はなかったその道路がダム底に沈むにあたって、村人の氏を慕う篤い思いからこの碑は建てられたそうです。

ふと、すべては毛利本家の御為に生き、ついに(結果的に)絶家断絶を招いた小早川家の養子、隆景公に思いを至らせてしまいました。

句碑・詩碑



[鮎本刀良意氏 歌碑]

高さ117cm 横130cm 厚さ10cm
台座の高さ30cm

旧豊田村に人造湖が出来る
この話を耳にして四年余村を歩いた
閑撥が平和な村を蝕んでゆく
足を叩いて十年
遠い昔の様で常に新しく鮮やかである

湖底に
新はり道と
なりし家も
草木もわれに
もの言ひかくる

鮎本刀良意

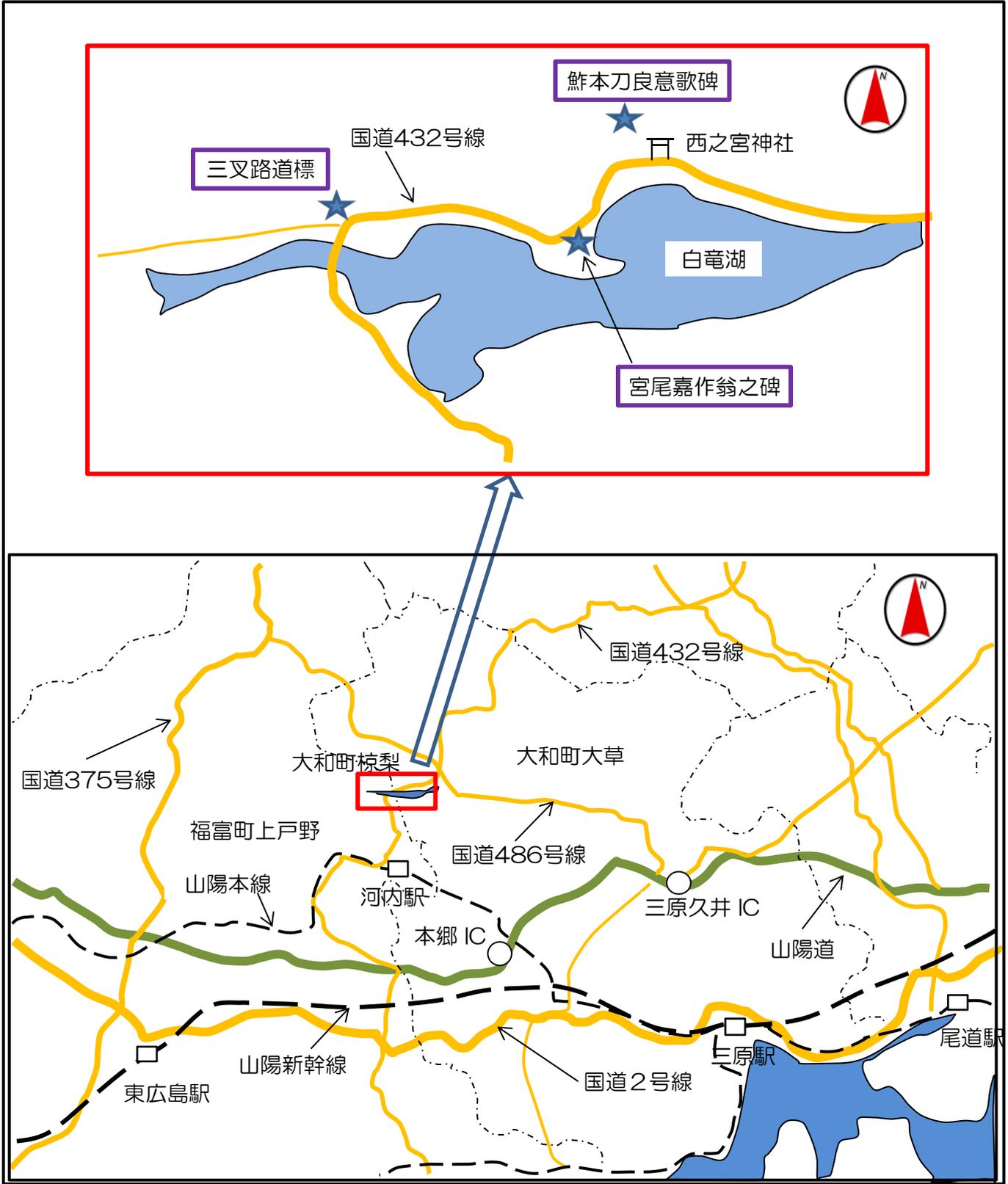
[歌碑 文字]

白竜湖リゾートからさらに東へ少し行くと、左手山側に西之宮神社があります。標柱には「昭和44年11月吉日」となっています。ダムに沈んだ村から移されたものでしょう。この神社境内に句碑は建っています。隣にはダム水没記念碑があります。神社らしからぬ道路と隣接する丸見えの境内に足を踏み入ると、荒れ果てた風情ではあっても、どことなく厳肅な、^{すしもととらお}侵し難い思いが湧きます。鮎本刀良意氏著「ダムに沈む村」…のせいでしょうか。郷土史家鮎本刀良意氏は病身を押してダムに沈む村々を、人々の心を、記録に残さなければここに通り詰め、村人の心に寄り添い記録されたそうです。宮本常一さんの案内もされたそうです。本に取材された村人の強く印象に残る言葉があります。「小の虫は殺してでも大の虫を生かさじゃあいけんと思うたからです。私らが面倒や不自由を我慢することで大の虫が、私ら以上の人のためになるなら、家も田も水の底に沈ませようと諦めたんです。」私たちは、沼田川下流域に住み、なに思うこともなくダムの恩恵を受けて暮らしています。人間が生きるということは、どこかで誰かを、何かを犠牲にしていると思わなければならないと感じます…。すべてを呑み込んでダム湖は静謐です。すべては時の流れに良きも悪しきをも供にして流されていくのでしょうか。



ここから少し走り3本目の橋を渡ると白竜湖スポーツ村公園があります。このあたり白竜湖畔は、春、桜の季節ともなれば、名の知れたというよりも、隠れたる桜の名所、決して落胆させない穴場的な場所でした。近年では写真紹介されることが多く、来訪者も増えてきているようです。また、桜と競演、春の花火、「白竜湖花火inだいわ」も開催されています。

概略マップ





三原にある狛犬



今回も、大和地区の狛犬を紹介します。（神社の由緒説明文は広島県神社誌による）

4.3. 平坂八幡神社（通称 上福田八幡神社） 三原市大和町平坂483

応永33(1426)年の勧請とされ、明治4年に荒神社2社、大正2年に若宮社を合祀しました。創建の時に八幡宮と宮島宮を同時に祀ったと伝えられています。

宝永元(1704)年重修と正徳2(1712)年再建立の棟札が納められています。



	(単位：cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	82	32	75
吽形	82	35	65
年代	不明		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	お座り型		



4.4. 御霊神社（旧称 忠魂社） 三原市大和町萩原^{ほいぼら}115-1

昭和6(1931)年創祀。旧神田村内に於いて、日清、日露両戦争をはじめ日中戦争、太平洋戦争に於ける戦歿の英霊215柱を祀ります。



	(単位：cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	90	38	70
吽形	97	38	70
年代	昭和13(1938)年1月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	お座り型		



4.5. 八幡神社（通称 市岡八幡神社） 三原市大和町萩原2640

当社はもと北方八幡宮、南方八幡宮と称し、共に産土の大神として氏子の崇敬を受け給う南北両所の氏神様でしたが、明治4年4月、当市岡の地に合併、市岡八幡神社と称し、翌5年村社に列格しました。また同5年3月その地の小社並びに氏子各家の祖霊神29荒神が合祀され、明治41年12月字森下に鎮座の筑紫神社（祇園さん）古市に鎮座の一品神社（いっぼんさん）がともに合祀せられ、萩原村二百数戸氏子の祖神を合祀する氏神様として靈験あらたかな御加護を垂れ給う。なお、南方八幡宮は伊予の住人、越智朝臣原田備前守総道が故ありて当郷を領し、その際に建立したと言います。



	(単位：cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	92	32	65
吽形	92	32	65
年代	昭和15(1940)年1月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



43. 平坂八幡神社（通称 上福田八幡神社） 三原市大和町平坂483



[神社説明碑]



[社殿全景]

44. 御霊神社（旧称 忠魂社） 三原市大和町萩原115-1



[参道全景]



[社殿全景]

45. 八幡神社（通称 市岡八幡神社） 三原市大和町萩原2640



[参道全景]



[社殿全景]